

作物名 〔作型・栽培法〕	資材名・剤型 ○種類名 ●商品名	有効成分 および含有率	委託会社名	試験実施場所	試験の種類; 処理方法; 処理時期	新継 の別	判定理由 または内容
						今回 判定	
4.ニンジン 〔露地マル チ〕	(1) (白黒ダブルフィルム) フィルム ○白黒ダブルフィルム ●白黒ダブルマルチ	(前掲)	マルチ栽培研究会	岩手園試 (1)	適用性 (うね間被覆による生育・収量への影響); 土壌表面被覆処理; は種直前.	新 継	試験年次不足.

昭和54年度茶園関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会技術部

昭和54年度茶園関係除草剤および生育調節剤委託試験成績検討会は、昭和55年1月16日、京都府立茶業研究所(宇治市)において試験関係者および委託関係者等40名が参集し、開催した。

除草剤3剤合計14点、生育調節剤2剤合計8点について、試験担当者の報告およびそれに対する質疑応答ならびに検討が行なわれた。その判定結果は次のとおりである。

昭和54年度 茶園関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤一覧および判定結果

A. 除 草 剤

薬剤名 ○種類名 ●商品名	委託者名	剤型・有効成分 および含有率	新継 の別 前回 判定	試験実施場所 (数)	試験のねらい; 処理方法; 処理時期; 散布薬量等	今回 判定	判定理由・内容・ その他
AL-501 ㊤ ○ _____ ● _____	旭化成工業	液剤 1,1-ジメチル-4,4-ビピリジリウムジクロライド ……7%	継	茶業試験場枕崎支場, 長野南信地方試, 静岡茶試, 京都茶研, 奈良農試(茶業). (5)	一年生雑草に対する除草効果および薬害の有無; 春および夏期, 雑草生育中; 70, 100 ml/a (製品) を茶樹にかからぬよう茎葉処理.	実・継	実; (グラモキソンと同等の除草効果を認める). 草高15cm以下で茎葉処理, 70~100 ml/a. (但し茶樹にかからぬように散布する). 継; 初年目であるので, 殺草効果の確認 (特にメヒシバの生育ステージと殺草効果の関係, および草種の拡大).
HW-920 ○ DCMU ● _____	保土谷化学工業	微粒剤 (3,4-ジクロルフェニル)-	継	埼玉茶試, 長野南信地方試, 静岡茶試, 三	一年生雑草に対する除草効果および薬害の有無; 春および夏期, 雑草生育	継	継; 除草効果不足, 更に処理時期を中心に効果の再検討.

薬 剤 名 ○ 種類名 ● 商品名	委託者名	剤型・有効成分 および含有率	新継 の別	試験実施場所 (数)	試験のねらい; 処理方法; 処理時期; 散布薬量等	今回 判定	判定理由・内容・ その他
			前回 判定				
HW-920 (つづき)		1,1-ジメチル ウレア……3%		重茶セ, 福岡 茶指. (5)	初～中期; 750～1000 g/a (製品)を雑草茎葉に 散布.		
MB-206 ○ リニユロ ● ロロック ス	丸和バイ オケミカ ル	粒剤 3- (3,4-ジ クロルフェニル) -1-メトキシ -1-メチル尿 素 ……1.5%	継	茶業試験場, 埼玉茶試, 三 重茶セ, 福岡 茶指. (4)	一年生雑草に対する除草 効果および薬害の有無; 春および夏期 (除草後), 雑草発芽前; 600, 800 g/a (製品)を畦間土壌処理	継	継: 600, 800 g/a の 薬量ではイネ科 (メ ヒシバ) に効果不十 分, 増量し, 800, 1000 g/a 程度で再 検討.

B. 生育調節剤

薬 剤 名 ○ 種類名 ● 商品名	委託者名	剤型・有効成分 および含有率	新継 の別	試験実施場所 (数)	試験のねらい; 処理方法; 処理時期; 散布薬量等	今回 判定	判定理由・内容・ その他
			前回 判定				
GT ○ _____ ● グリンナ ー	日本グリ ンナー	液剤 マイクロクリ ス タリンワックス ……11.3% オレイン酸 ……2.02% モルフォリン ……1.12%	継	埼玉茶試, 長 野南信地方試, 岐阜中山間地 農試, 奈良農 試(茶業). (4)	茶樹の寒早害防止; 12月 ～2月にわたり; 10, 20 倍液を反復3回, 毎回, 300～400 l/10a 散布.	継	今年度は効果判定困 難 (試験期間内暖冬 で経過し, 明確な結 果が得られない).
キクノー ○ パラフィ ン ● キクノー	三和産業	乳剤 パラフィン ……24%	継	埼玉茶試, 長 野南信地方試, 岐阜中山間地 農試, 奈良農 試(茶業). (4)	茶樹の寒早害防止; 12～ 2月にわたり; 10, 30倍 液を反復, 3回, 毎回, 300～400 l/10a 散布.	継	今年度は効果判定困 難 (試験期間内暖冬 で経過し, 明確な結 果が得られない).

外 国 文 献 抄 録

農薬残留分析実施上の良き慣行(案)

今回は, 国連FAO, WHOで作業中の上記
案について, 日本植物調節剤研究協会研究所職
員がほん訳したので, それを掲載することとし
た。

1977年: オランダハーグで行なわれた国際食
品規格委員会残留農薬規格部会, 分析方法特別
作業委員会の集会 (a meeting of the
ad hoc Working Group on Methods
of Analysis of the Codex Commi-
tee on Pesticide Residues)。